

本書の★の数による緊急度評価はあくまで目安です。動物の状態により早急な診察が必要となる場合もありますので、不明な点があればかかりつけ病院または夜間病院に連絡してください。

※その他気になる症状があれば必ず連絡すること

目次

心肺停止	1	★★★★★
けいれん発作	2	★★★★★
ワクチンアレルギー	3	★★★★★
異物・中毒物質摂取	4	★★★★
目を痛がる	5	★★★
耳を痒がる	6	★★
嘔吐・下痢	7	★★★★
咳・呼吸困難	8	★★★★★
跛行・足を挙げている	9	★★★
血尿・頻尿	10	★★★
深ツメ	11	★
難産	12	★★★★

動物病院受診の心得

1. 心配なことがあればすぐに連絡
2. 動物はもちろん話せません。そのため診察の中では獣医師や動物看護師がたくさん質問をします。気になることがあれば何でも結構ですのでお話しください。
3. その際、情報はたくさんあった方がいいですが、症状を口で説明するのは難しく正確に伝わりにくいものです。排泄物や症状の写真や動画などを撮影することが可能であればご持参いただくと診断のための情報が伝わりやすいです。便や尿はそのものをご持参いただくとそのまま検査できます。
4. 治療中の病気やその飲み薬がある場合は、お薬を持参いただくとともに処方箋や診療明細書があればご持参いただく事がとても重要です。飲み合わせのよくない薬の組み合わせや治療の重複を避けるために大切です。
5. 上記より大切なことは、動物の状況は刻一刻と変化するという事です。動物たちの病気の進行は早く、少しの間の経過観察が重篤な状況へと変化することがありますので、不安要素があれば、できるだけ速やかな受診をお勧めいたします。

心肺停止

緊急度



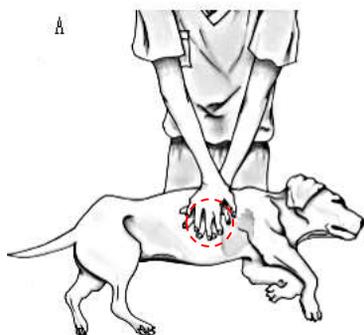
症状	横たわっている, 息をしていない 舌の色が青白いまたは紫色
----	----------------------------------

一番にする事	①速やかに動物病院に連絡 (年齢, 犬種, 呼吸が止まっていた時間 , 治療中の病気などを伝える) ②すぐに 心肺蘇生 する必要があります。処置について適切な指示を受ける
--------	---

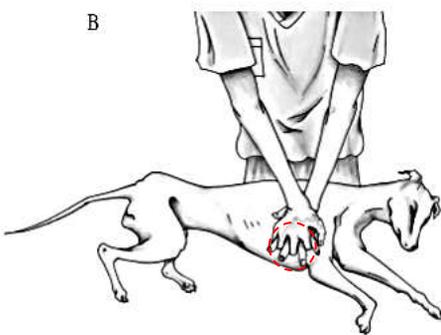
MEMO

●心肺蘇生法 (YouTubeに動画が掲載されています)

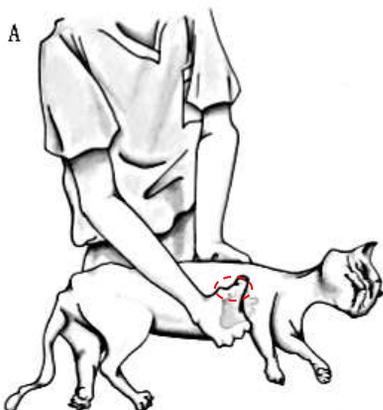
- ・動物を横に寝かせる
- ・前肢の付け根(図の○の位置)を胸の高さが半分位になる強さで押す
※1秒間に2回のペースで繰り返し心臓マッサージを続ける
※来院を指示された場合は, その間も続けます



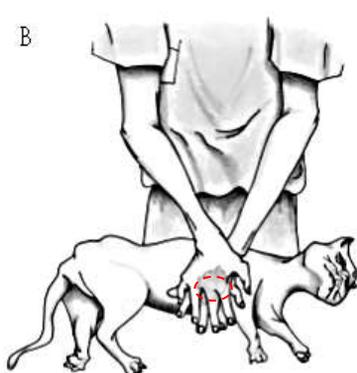
中～大型犬の場合



胸郭が樽形の犬の場合



猫や小型犬の場合



けいれん発作

緊急度 

症状	ガタガタけいれんしている 手足を強く突っ張っている けいれんは治まったけどまだ震えている
----	--

一番にすること	①速やかに動物病院に連絡 (年齢, 犬種, けいれんの様子, 今回が初めてか 今までに同様のけいれんが起こったことがある か, けいれんの治療中か) ②可能なら動画撮影 ③すぐに来院
---------	--

MEMO

●けいれん発作

- ・けいれん発作は様々な原因が考えられます。
→内臓の問題, 心臓の問題, 脳神経の問題など様々です
- ・けいれん発作は突然訪れます。
→発作が治まった後も同様の発作が起こりやすい状態が続きます
動物病院の診察時間内であれば, 早期の診察をおすすめします
- ・けいれん発作の怖いところは, 場合によっては発作の上に発作が重なって
どんどん強くなっていくような『**重積発作**』と呼ばれる状態に陥る事です
- ・けいれん発作が起こった後は, 動物が興奮状態になっている事があります
ので, 接触には十分に注意してください
※いつもはおとなしい子であっても不用意に触れると咬んでくることもあります
- ・すぐに収まっても診察をおすすめしますが, 病院の診察時間外でやむを得ず
経過観察する場合は, 今後1ヶ月以内に同様の発作が起こらないか注意深く
観察を続けてください

ワクチンアレルギー

緊急度



症状	顔が腫れる(その前に異常にかゆがる) 嘔吐, 下痢 ふらつく, 舌の色がいつもより白っぽい
----	---

一番にする事	①速やかに動物病院に連絡 (年齢, 犬種, 状況, ワクチンを接種した時間) ②ワクチン以外でも薬などでも起こります ③すぐに来院 (証明書があれば持ってくる)
--------	--

MEMO

●ワクチンアレルギー

- ・体がワクチンの事を異物と認識してしまい, 強い免疫反応が起こります
→そのため, 全身の血液の流れが悪くなり, 急激な血圧低下やその他の様々な症状が生じます。
- ・ワクチンアレルギーは放置すると死に至る危険性もありますので適切に対応しなければなりません
- ・ワクチン接種後1時間以内に起こる反応は非常に強く, アナフィラキシーショックに陥る事があります
→この場合は緊急の処置が必要です
- ・ワクチン接種後4~6時間後に起こる反応は適切に処置がなされないと今後アナフィラキシーショックへ移行する可能性もあり注意が必要です

異物・中毒物質摂取

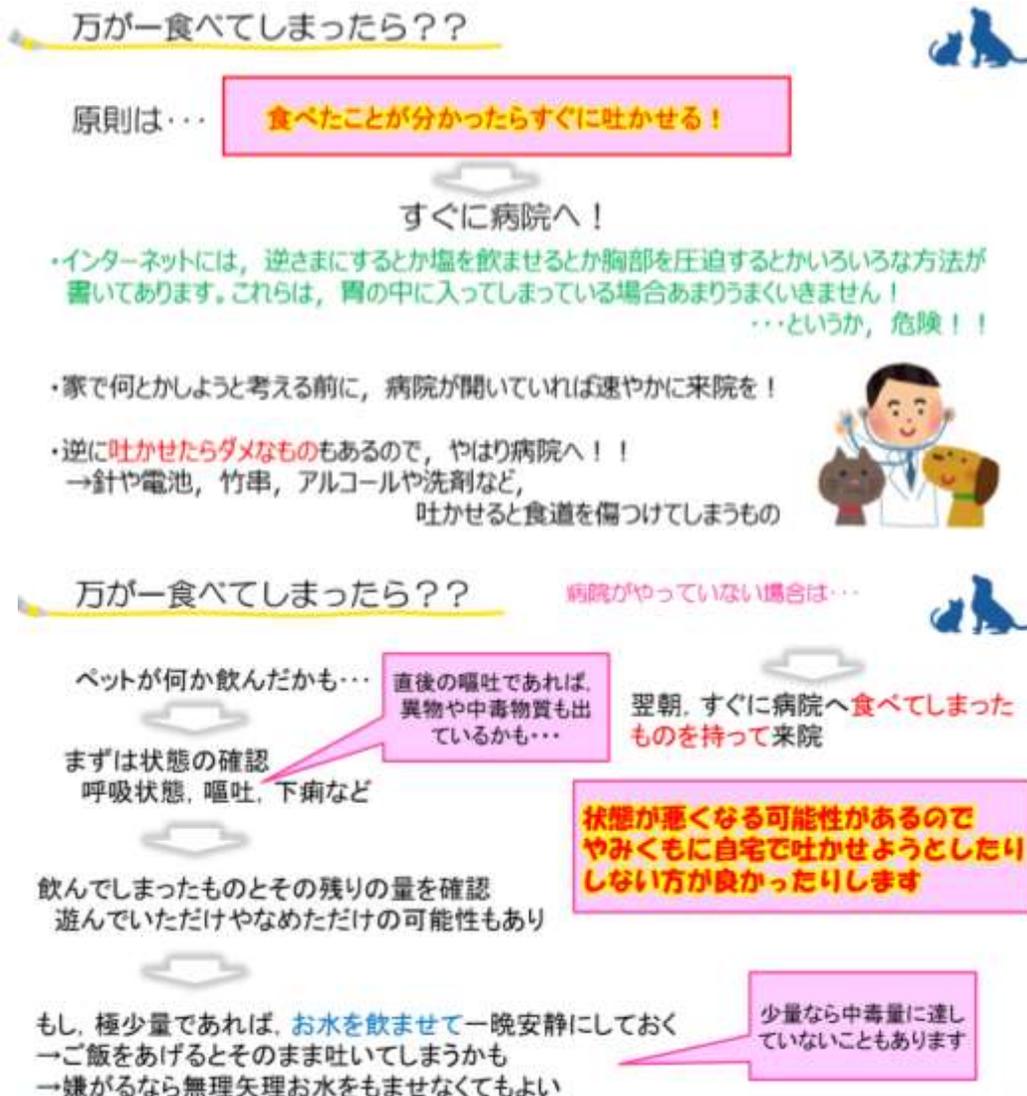
緊急度



<p>症状</p>	<p>中毒になり得るものを食べた たまねぎ, チョコ, キシリトール, ブドウ, たばこ, 医薬品 など 異物を摂取した</p>
-----------	--

<p>一番にする事</p>	<p>①速やかに動物病院に連絡 (年齢, 犬種, 食べたものの種類と量, 何時間前に摂取したか, 食事は何時か) ②摂取して<u>1~3時間以内</u>であれば嘔吐させる ③すぐに来院</p>
---------------	---

MEMO



目を痛がる

緊急度



症状	目が開かない 目をしょぼしょぼしている 目が赤い
----	--------------------------------

一番にする事	①動物病院に連絡 (年齢, 犬種, 状況) ②気にしてこれ以上こすらない様にエリザベスカ ラーがあれば装着する ③できるようであれば来院
--------	--

MEMO

●目を急に痛がる

- ・一般的には眼球の表面(角膜)が傷ついて痛みを生じる場合が考えられます
→この場合は, 傷ついた場所に細菌感染を起こすことで, 放置すると
眼球穿孔に至る可能性もあります
- ・緑内障による眼圧の上昇のため強い痛みを生じる場合もあります
→放置すると失明してしまいます
- ・そのほかにも様々な原因があります
- ・できるだけ早く病院での診察が必要な疾患です

耳を痒がる

緊急度 

症状	耳が赤い, 腫れている 無心に掻いており, 血が出ている
----	---------------------------------

一番にする事	①動物病院に連絡 (年齢, 犬種, 状況) ②気にしてこれ以上掻かない様にエリザベスカ ラーがあれば装着する ③できるようであれば早期の受診
--------	--

MEMO

●耳が痒い

- ・まずは緊急度は低いと考えられますが, 原因によっては早急に治療が必要になります
- ・多くの原因は, アレルギーやアトピーが考えられます
→その根本原因の上に, 細菌感染や真菌(主にマラセチアなどのカビ類)感染があり, 状況がひどくなります
- ・その他の原因としては, ミミダニ(;ミミヒゼンダニ)の感染症があります

嘔吐・下痢

緊急度



症状	頻回に吐いている 下痢・血便(赤い・黒っぽい) 食欲もない
----	-------------------------------------

一番にする事	①動物病院に連絡 (年齢, 犬種, 状況, 嘔吐物や下痢の様子) ②来院を指示された場合 便などがあれば持参, 異物を疑う場合は摂取したものの残りを持参 ③早期の受診
--------	---

MEMO

●嘔吐

- ・原因が無数にあります→早期の診断を受けること
- ・嘔吐が1回であったり, 食欲があるなどの全身の状態があまり深刻でない場合は1晩程度経過を観察しても良さそうですが, この後状況が悪くなっていく事も考えられますので, できるだけ早期の受診をお勧めします
- ・頻回に嘔吐があり, 食欲もない場合は**速やかな受診**が必要です

●下痢

- ・原因が無数にあります→早期の診断を受けること
- ・下痢は1回でその後の便は普通であったり, 食欲があるなどの全身の状態があまり深刻でない場合は1晩程度経過を観察しても良さそうですが, この後状況が悪くなっていく事も考えられますので, できるだけ早期の受診をお勧めします
- ・嘔吐も伴っていたり, 食欲もない場合は**速やかな受診**が必要です
- ・下痢がある場合, 多くは診察の中で便検査を実施するかと思いますので, 便の様子を説明する上でも, 直前の便などがあれば持参いただくと助かります

★異物・中毒の可能性がある場合は, **速やかに受診!**



症状	咳 舌の色が紫色(チアノーゼ) 呼吸が速い
----	-----------------------------

一番にすること	①動物病院に連絡 (年齢, 犬種, 上記の症状の様子) ②横にしたりしない, これ以上興奮させない 伏せの姿勢に首を長く伸ばす ③速やかに受診
---------	---

MEMO

●咳

- ・咳には、『呼吸器(気管支や肺)の問題』と『心臓の問題』の大きく2つの原因が考えられます
- ・原因は何であれ, 咳や呼吸困難は放置すると命に関わる事があります
- ・早期に動物病院で酸素吸入を実施したり, 処置を行う必要があります
- ・来院までの間, しんどそうだからと横に寝させるのは, かえって状況が悪化することがありますので, 伏せにして首を伸ばすようにし, 呼吸がうまくできるように助けてあげてください
- ・診察の際, 咳の様子を獣医師より伺う事が多いので, 可能であれば, 咳の様子や呼吸の様子の動画を撮影していただくとありがたいと思います

★逆くしゃみ症候群

比較的若齢の小型犬に多い発作性の呼吸です。症状としては、鼻から勢いよく空気を吸おうとする際にブーブー、フガフガという音が生じます。症状は数回で治まることもあります。出たり治まったりを数分繰り返す事もあります。症状が消失した後はいつも通り元気な様子に戻るのが特徴です。

一生懸命息を吸おうとしている様子や、何かつまっているような呼吸音から、このまま呼吸が止まってしまうのではないかとご心配されることもありますが、この症状で命を落とすことは無いと言われていています。

逆くしゃみの原因は未だ解明されておらず、この症状に対しての対処法や治療法も無い為、まずご自宅で安静にしなが様子を見てみていただく。

もしかすると逆くしゃみではなく、もっと重篤な病気が隠れているかもしれないので、初めて見る症状であれば一度動物病院にご相談下さい。

跛行・足を挙げている

緊急度



症状	足を挙げている 足を引きずる 後肢が麻痺している(立てない)
----	--------------------------------------

一番にする事	①動物病院に連絡 (年齢, 犬種, 上記の症状の様子, いつから始まり今はそのときより改善があるかひどくなっているか) ②痛みを伴う事が多いため, 不用意に触らない ③すぐに受診できない場合は, 絶対安静 ④できるだけ早期に受診
--------	--

MEMO

●足を挙げる

- ・基本的には「痛み」を伴う様な症状です
- ・不用意に触ると, いつもはおとなしい子でも攻撃してくることもあります
- ・必ず安静を心がけてください(すぐに受診できない場合)
→ケージに入れておくなど
- ・どこかから飛び降りた後から足を挙げるなどの症状がある場合(小型犬に多い)
骨折している可能性も考えられますので, 激しい痛みがあることがあります

●足を引きずる(跛行), 麻痺

- ・骨折や関節の問題だけでなく, 脊椎(背骨)や神経の異常がある可能性があります
- ・この場合は, もし神経の問題であれば, 時間とともに経過が悪くなる事があるのでできる他で早く診察を受ける必要があります
- ・そのほかの原因として, 足に向かう大きな血管に血栓が詰まってしまってる事もありますので病院の診察時間内であれば, 経過を観察するより受診した方がいいと考えられます

血尿・頻尿

緊急度 

症状	おしっこが赤い 尿量が少ない 何度もトイレに行くが出ていない様子
----	--

一番にする事	①動物病院に連絡 (年齢, 犬種, 上記の症状の様子, 食欲はどうか, 排尿時痛みはあるかなど) ②尿が液体の状態であれば持参 ③できるだけ早期に受診
--------	--

MEMO

●血尿・頻尿

- ・多くの場合は、膀胱炎からくる症状です
- ・膀胱炎は、細菌感染や不適切な食事、結石あるいは膀胱内腫瘍によるものが考えられます
- ・緊急の症状は少ないですが、尿路結石などの閉塞病変では緊急の処置が必要となる場合もあります
 - おしっこが全く出ないや嘔吐がある・食欲がないなどの症状が併発する場合は速やかに受診してください
- ・診察の中で、尿検査を実施しより原因を詳しく調べる事ができますが、この疾患の場合は、尿量が少なく、十分な尿検査が実施できない事があります
 - もし自宅で尿が液体の状態であれば採取できたら持参していただくと助かります

深ツメ

緊急度



症状	深ツメして出血している 爪が折れて出血している
----	----------------------------

一番にする事	<p>①止血(ティッシュやコットンなどで圧迫) →4~5分ほど押さえておく →止血できたら安静にしておく(翌日受診)</p> <p>②止血できない →圧迫止血を何度か繰り返し、血がにじむ程度であれば止血剤の代わりに小麦粉や片栗粉をそっとつけるのも有効です</p> <p>③うまくいかない場合は動物病院に連絡・受診</p>
--------	--

MEMO

難産

状況による

緊急度



症状	以下を参照
----	-------

一番にすること	<ul style="list-style-type: none">①以下の判断基準に当てはまるあるいは母体の状況が深刻な場合は速やかに連絡②受診の指示があった場合はできるだけ母体にストレスのかからない様に来院③来院中に出産することもあるので生まれた新生児の体温低下を防ぐために清潔なタオルなどを持参
---------	--

MEMO

●難産の判断(以下のような場合にはお電話ください)

※各項目の時間はあくまで目安です

- ・陣痛開始から約120分たっても胎子が生まれない
- ・30分以上強くて持続的な陣痛があるが胎子が生まれない
- ・陰部から緑色の分泌液が出ているが胎子が生まれない
- ・破水から90分以上経過したが胎子が生まれない
- ・前の胎子が生まれてから120分たっても次の胎子が生まれない
(猫の場合はさらに時間があく事あり)
- ・出産全体が4～6時間を超えている

★新生子の取り扱い(新生子が生まれたらまず行うこと)

- ・新生子が膜につつまれている場合には膜を破る・乾いたタオルで体をこすり呼吸を促す
- ・自分でしっかり呼吸ができていることを確認する
- ・新生子のへその緒を、おなかから2センチくらいの位置で糸で結び、結び目の外側をハサミで切る
- ・毎日健康状態をチェックする(体重が毎日増えていることを確認する)